

# 第15回「たばこはやめて！」(2002～3年) コンクールの審査講評

## 1. 紙芝居・絵本

今年の応募作品は紙芝居や絵本のフォームをなしていないものが少なくなく、形式が整っていないとその時点で落とされてしまうこともあるので注意してほしいと思います。絵本のつもりでマンガとしてのフォームが整っていたものがあり、それはマンガとして評価しました。

紙芝居では、絵の中に吹き出しやセリフを描き入れては紙芝居になりません。紙芝居を演じてもらうという機会が少なくなって、このユニークな日本文化に触れずに育った子どもたちが増えていくことをうかがわせて誠に残念でした。次回は、紙芝居の作り方の解説を主催者のホームページに掲載せ、応募者にはそれで学習していただく企画もお願いしたいと思います。

本コンクールはテーマが決まっているので、作品としてのフォームと、メッセージの両面から評価されます。メッセージの方で不正確、非科学的、あるいはあまりにネガティブなものは除外されたり訂正を要求されたりしますので、伝えたい内容もよく勉強していただきたいと思います。

厚生労働大臣賞の絵本作品は、絵も洗練されていて、ストーリーも動物(サル)が人の物まねタバコを吸い始め、みんなに迷惑がられて独りぼっちになり...という展開で、今少しユニークさがあればと思われました。文部科学大臣賞の紙芝居作品は、小学生の保健体育委員会5人の合作で、タバコを吸うお父さんに、ペット犬のさくらがタバコの害を説き聞かせるストーリー展開で、子ども達にわかりやすい作品に仕立てていて、よく勉強しているのが評価されました。(中川健蔵、堀田穰)

## 2. ポスター

禁煙・無煙が全国に徐々に浸透している昨今、今回も全国から多くの作品が寄せられました。美術コンクールとは少し違って、テーマが「たばこはやめて!、吸っちゃダメ!、タバコの害・迷惑」に限定され、しかも啓発活動に活用しますので、その観点から審査を進めました。

わかりやすさ、訴えの強さと優しさなどの表現が大切です。絵が上手でも余りに強すぎる表現よりも、タバコの煙を嫌がる迷惑の表情や、表情の豊かさのある作品が最終審査にあがってきました。

いずれの作品も、ひとつひとつに込められた熱い思いが伝わってきますが、ポスター部門の入選数が100点前後という限定があるために、選定作業には審査員としてつらいものがあります。各部門の絵を机の上に並べ、三～四次審査まで審査員の投票方式で選定を進めました。絵が必ずしも上手でなくても、体験と実感に基づくユニークさや表情豊かなアピール力のある作品が上位となりました。投票による相対評価で選ばれた作品は、訴えかける表現の優れたものが残り、最終的には上位の作品を協議して最優秀作品を選定しましたが、甲乙つけがたい出来映えの作品が多くありました。優れた作品が多くあったので、今回は入賞数を増やしました。

これら入賞した作品が、次回の啓発ポスターやカレンダーのデザインに活用され、また多くの人の目に触れ、社会的改善に役立てられることを楽しみにしています。(新谷隆夫)

## 3. マーク

シンプルでわかりやすく、インパクトが強い - - 優れたマークは、これらの要素をバランスよく満たしているものです。「タバコの害・迷惑を表現する」ということで、描く素材はある程度限られてきますが、マークの鉄則を踏まえるとともに、意外性のあるユニークな発想や表現テクニックがプラスされていることを、毎年期待しています。

今回、厚生労働大臣賞に選ばれた作品は、モチーフとしてはわかりやすくポピュラーな“タバコダメマーク”と赤ちゃんの組み合わせでしたが、大胆にもそのマークが、泣き叫ぶ赤ちゃんの大きな口になっているため、泣き声が聞こえてきそうなほどの迫力を放っていました。(色のコントラスト)

トと煙の配置にもう一工夫があれば、なおよいマークになるように思います)

文部科学大臣賞の作品は、タバコが突き刺さったハートにたくさんのひび割れが描かれ、わかりやすさもさることながら、見るものをハッとさせる強烈なインパクトがあり、タバコによって壊されていく心と体という意図が見事に表現されていました。また、煙のボカシ表現を付加するなど描画手法にも独自性が感じられました。

小中学生からの応募も多くありましたが、荒削りながらそのアイデアに少し手を加えれば良い作品になるとの評価から、入賞とさせていただいた作品もありました。(高部遵子)

#### 4. メッセージ

例年行っている標語・川柳に替わって、今回はメッセージ部門を募集しました。「たばこはやめて！子どもサミット」でメッセージを発表していただく企画にしたためです。

文章の審査は、絵とは違ってじっくりと読み、訴えかけるものを評価する必要があり、審査はたいへんでした。周りや家族のタバコに困っている子ども達(未成年者)からのメッセージ発表であることをポイントに選定しました。知識を述べるだけでは作文であってメッセージとはなりません。結果的に、個々人の体験にもとづく訴えかけ(メッセージ)を社会に発信する作品が入賞として選ばれました。

選定作品は全て「入賞」としました。3月29日に行う「たばこはやめて！子どもサミット」発表コンクールで発表いただき、最終審査の選定をしたいと考えています(もっとも入賞者の年齢幅があり、評価は相対的なものになりますので、優秀賞選定できるとは限りませんが...)。(事務局審査員・野上浩志)